

ばあちゃんは戦争を知ってます

野尻光子 宇都宮市

昭和16年12月8日。戦争が始まりました。日本は勝った、勝ったと喜んでいきます。

4月に私は小学生になりました。学校では、日本は神様の国なので、敵がどんなに強くても神風（かみかぜ）が吹いてやっつけてしまうんだ、と教えられていました。大人はウソをつかないと、それを信じていました。しかしその神話は裏切られてしまったのです。負けた、玉砕だ、と暗い話が続きます。

東京も大空襲にあい、焼け野原になりました。広島に、長崎にピカドンが落ちて、たくさんの命を奪いました。今でも後遺症に苦しんでいる人がいるのです。広島生まれの友人の話では、はるか離れたところから見た爆弾の光に、なんだかわからないけど泣き出してしまったそうです。恐ろしい爆弾です。

とうとう来ました、7月12日。宇都宮大空襲（注1）。雨が降る夜中でした。すさまじい音に目が覚めました。B29の爆音と焼夷弾の炸裂する音に、いざというときに用意していた、リュックサックやらトランクをもって逃げるよりほかはなかったのです。怖かった。足の震えが止まら

なかった私です。

東を見ました。駅が燃えています。南にも炎が上がっています。お母ちゃん、お姉ちゃん、私とお母ちゃんにおんぶされた弟の4人は西に逃げろしかなかったのです。二荒山の前を通っても拝む暇ありません。のんき者の私は落ちてくる爆弾を見て、「きれいだ」と言って、お母ちゃんにこつびどく叱られました。

忘れることのできない光景を見ました。年老いた母親に布団をかぶせて抱きかかえた男の人。二人ともはだしでした。私は自分の足元を見ました。履いていたのはポツクリでした。慌てた私は大好きなポツクリを履いて逃げ出したのです。

お母ちゃんのお友達の薬屋さんに寄って、一緒に逃げました。護国神社を過ぎて、1軒の農家にお願ひして、あまの軒先を借りて、濡れた衣類を着替えました。そのうちの人は親切で、危ないからといって、地下に掘った防空壕を兼ねたイモを貯蔵する穴に下ろしてくれました。下りてみると、そこは広くて立派でした。

爆撃が終わってB29は飛び去りました。夜が明けました。私たちは東に歩き出しました。幸い、薬屋さんのおうちは無事だったのです。不幸中の幸い。

疲れ果てた私たちに薬屋さんが用意してくだ

さったのは、暖かい布団でした。縮こまった手足を伸ばしてぐっすり眠りました。食事も用意してくださいました。有難くてお礼の言葉もありません。

でも、心配でした。お父ちゃんは、おじいちゃん、どうしたかな。いま、どこにいるのかな。胸がきりきり痛みます。薬屋さんのおじさんが、私たちの居場所を知らせる立札を家の焼け跡に立ててくれました。それを見て駆けつけてくれたのは、以前、家で働いていたマサドンでした。マサドンは、家も蔵も焼けてしまったと言いました。大旦那は亡くなったと。大旦那はおじいちゃんのことです。寝たきりのおじいちゃんを背負って、お父ちゃんは二荒山の裏山に逃げたのです。爆風に飛ばされないように石垣にへばりついたというのです。おじいちゃんはお父さんの背中で「トクタロウ、すまねえな」と言って息を引き取りました。亡くなったおじいちゃんは火葬できず、土葬にされて今も慈光寺のお墓で眠っているのです。

お母ちゃんの実家の大橋家は無事だったと聞いて、私たちは今度は東にまた歩き出しました。疲れも忘れて歩きます。

上町から見下ろした宇都宮の街並みは、なにもかも消え失せて見るも無残な焼野原に変貌して

いたのです。

私たちは東に、変わり果てた道を歩きだしたのです。焼け跡からの悪臭にむせることもありました。歩いて、歩いて、ガードをくぐり抜けて、やっと大橋家に着きました。ここは何事もなかったかのようでした。ほっとしました。

お父ちゃんは、足首をねん挫しただけで無事でした。その日から大橋家の離れは高村家の5人の住処になりました。しかし、安眠する夜は来なかったのです。毎晩のように空襲警報のサイレンに飛び起きて、防空壕に逃げ込む夜が続きました。食べるものがなく、みんな、みんな疲れました。

8月15日。ラジオから聞こえるのは、天皇陛下様のお言葉でした。神の国日本は負けたのです。それを聞いてお父ちゃんは泣き出しました。戦争の責任は大人にあり、子どもたちに申し訳ないと、声を上げて男泣きに泣きました。私はこれからは夜中に防空壕に退避することはなくなると喜びました。でも戦争が終わっても、元の宇都宮には戻れません。悔しくて悲しいことなのでした。私の通う学校も焼けてしまいました。学校仲間には、一家全滅で亡くなった人もいました。かっこいい人でした。生きていたら、立派な紳士になっていたと思います。残念です。

私たちは中学校の講堂を借りて勉強すること

になりました。遠い道を歩いて通いました。家に帰ると疲れてぐったりしてしまいました。その道は今泉小学校のわきを通らないといけません。雨の日でした。帰り道を急ぐ私に気づいた今泉の生徒たち。あいつは東校だ、やっちゃまえ。軍国主義の名残で、ほかの学校は敵だったのです。さしていた傘は石のつぶてを受けてボロボロになりました。悔し涙を流しました。その頃の私は、なりは大きくて立派でしたが、気持ちも体も弱い、いじめられっこだったのです。

決心しました。このままではだめだ、強くなりたいとだめだ、決めました。心も体も強くなるうと努力しました。今の私になりました。戦争のおかげかもしれません。

でも私は叫びます。「戦争反対!」と叫びます。孫のカケル君、一緒に叫びましょう、「戦争反対!」と叫びましょう!

注1…宇都宮空襲(総務省HPより)

7月12日23時19分(米軍資料)、アメリカの

B-29爆撃機による宇都宮空襲が開始された。米軍資料には、この空襲の意図、爆撃計画、空襲中の様子、日本側の抵抗、空襲の効果判定などの文書、空襲前後の偵察写真などが記録されている。それによると、この空襲が軍需工場や飛行場など特定の軍事目標ではなく、一般市民の住む市街地(宇都宮市立中央小学校を中心に半径

1.2kmの円内)の焼失をねらったものであることがよくわかる。

この空襲で投下されたのは、M47焼夷爆弾・E46収束焼夷弾である。E46は、投下後ある一定の高度で、中から38個のM69焼夷弾が分かれて落下する仕組みであった。深夜の空襲は2時間を越す長時間にわたり、避難と消火活動は困難を極めた。

現在のR宇都宮駅から東武宇都宮駅の間はほぼ壊滅状態となり、死亡者数620名以上、負傷者数1138名以上を出すという大きな被害を受けた。この空襲は、町並みと貴重な歴史遺産を焼失させ、市民生活に大きな打撃と混乱を与えたのはもちろん、長期にわたって心身に傷跡を残した。

下野新聞によれば、B-29が140機来襲し、そのうち約70機が宇都宮を爆撃し、鹿沼・真岡にも被害が出たこと、約20機が福島県郡山方面に爆撃を行ったことが報じられている。また、宇都宮・芳賀・上都賀へ70機と記録されているもの、一方、アメリカ軍の「作戦任務報告書」には「出撃133機中、115機が宇都宮を爆撃」とあり、宇都宮を実際に爆撃したB-29の機数ははっきりと分かっていない。